

大阪日々新聞

三百
十号

西成郡大田區曾根崎村川村まゆと云々の二階まで
情死の二件ハ上福島山崎安藏の二女一げ九女と
つもの此すつ方三味線のけいふ通人頃より
江戸堀三丁目三嶋安兵衛と云々の同此家へ
心安く立入互に知りあひていつる思ひは深き
中とありて懐妊しんと子へおどろきあつて
幸に父安藏も安兵衛夫婦せんきと好まざれども
状を取置れど焼く火の分安の安兵衛煙も胸かへり
又下りすると聞及びて安藏も心とつる弟直七を頼て三月
十五方直七へ見せしめ安兵衛も来合せて
文珠のちあも出がね其日別々又一日する方へ
皆よりあつてさうあげも奉公して身の過りも
出来し上改て夫婦せんきと云々の心得し
ていふ二階をがし玉といふつ
とも有つと兩人を二つ人上へおどろき
し物音聞へけり手燭を舟て
より見せやけり咽をきくか
つて息絶り安兵衛
が庖丁を腹につとえ
うめをきく終る息
ふり同村の人
うめ馬鹿なるまゆと云々と
若ひおろし忠告する 柳櫻記



柳櫻記